

第3章 区域計画

● 「区域計画」の推進について

(1) 「区域計画」の構成と取組主体

区域計画は、「地区別計画」の取組支援と他地区に取組を広げるきっかけづくり等を推進する「地区支援目標」と、重点的なテーマに沿った事業ベースの具体的な取組をまとめた「重点テーマと目標」の2つで構成されています

この「地区支援目標」と「重点テーマと目標」の実現に向け、区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザが、地域や関係団体・事業者などと協働で取り組んでいきます。

(2) 地区支援目標

「地区支援目標」は、各地区で展開されている「地区別計画」を中心とした取組について、その充実や実現に向けて、助言等を行うとともに各種助成制度などの活用により、支援を行います。

また、「地区別計画推進策定委員会」や「地区支援チーム」における活動を通じて、各地区の取組を把握し、その手法やノウハウを蓄積して効果的に地域に情報提供することで、他地区にその取組を広げるとともに、取組の支援を行ないます。

| | |
|-----|--|
| 目標1 | 地域での「つながり」づくりの取組を支援し、ともに推進しながら、他の地域へも取組を広げていきます！<つながり> |
| 目標2 | 多くの人が地域で活躍でき、地域活動が広がっていくことを目指し、地区の支援やコーディネートを行います！<人材・担い手> |
| 目標3 | より身近な地域で活動できるよう、地域活動における「機会」「場」に関するノウハウを共有し、活用します！<機会・場> |
| 目標4 | 地域情報を共有・活用できる体制づくりをすすめます！<情報> |
| 目標5 | 地域の取組を共有するとともに、活動の広がりを意識しながら継続して取り組めるよう、支援を行います！<安全・安心・健康> |

(3) 区域計画の重点テーマと目標

「重点テーマと目標」は、「区民アンケート」、「分野別・団体別グループインタビュー」や、各地区の「地区別計画推進策定委員会」などでの意見を参考に、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」の提言に基づき、区域での取組が必要と考えられる6テーマを選定しました。

また、「目標」や「主な取組」に関しては、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザを中心に検討を進め、それぞれのテーマの必要性に関して、「背景と取組の方向性」「これまでの取組」「期待されること・求められていること」などを経て、項目を選定しました。

| | | | |
|------|--------------------|------|-----------------|
| テーマ1 | 日常的な見守り体制づくりに関する取組 | テーマ4 | 子ども・子育てに関する取組 |
| テーマ2 | 認知症に関する取組 | テーマ5 | 災害時に支援が必要な方への取組 |
| テーマ3 | 障がい児・障がい者に関する取組 | テーマ6 | 健康づくりに関する取組 |

(4) 「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」について

第1期、第2期計画に引き続き、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」が、地区別計画を含めた第3期計画での取組状況の把握や振り返りを行っています。

委員は、学識経験者、福祉保健活動団体等の代表などで構成しています。

<平成29年度の開催状況>

【第1回】平成29年10月6日

(内容)平成29年度推進スケジュールについて、重点取組について など

【第2回】平成30年3月26日

(内容)平成29年度の区域計画・地区別計画の振り返りについて など

● 6つの重点テーマの推進状況

(1) 日常的な見守り体制づくりに関する取組

■ 助け合い・支え合い活動 Good Job! 交歓会

12月11日にハーモニーみどりで、「助け合い・支え合い活動 Good Job! 交歓会」が開かれました。参加者は連合地区エリアで地区ボランティアセンターを行っている方、自治会エリアでご近所の助け合いの仕組みを作って運営している方、またそういった活動をこれから始めようとしている方など様々で、依頼する人と活動する人の「調整役」の皆さんやボランティアさん、9団体18名が集まり、活発な意見交換が行われました。

「地域の大勢の人が活動してくれるのは嬉しい」「ボランティア派遣するとありがたいと何度も電話をくれるのでやりがいがある」という感想がある一方、「ゴミ捨ての応援に行くと、実は話し相手が欲しいという人もいたりする」「ボランティアはきりがないところもあり一定のルール作りが必要」「有償も考えている」などの意見がでました。



▲ グループごとの情報交換の様子

■ 集合住宅向けマグネットシート見守りマグネットの配布

支援が必要な人を早い段階で発見し、相談や支援に繋げるため、十日市場団地地区と長津田地区の集合住宅を対象に「マグネットシート」の作成・配布を行いました。

この「マグネットシート」は、家庭の冷蔵庫や玄関ドアなどに常時貼り付けておけるもので、保存性も高く、緊急時や必要時にすぐに連絡先を確認することができるので、早期の連絡・相談を促すことができます。また、地域の総合相談窓口である「地域ケアプラザ」を連絡先にすることで、様々なお困りごとをワンストップで受け止め、必要な支援に繋げることができます。



▲ マグネットシート

この取組は、平成27年度からスタートした「生活困窮者自立支援制度」のモデル事業として、地域ケアプラザと区が連携して進めました。

(2) 認知症に関する取組

■ 緑区認知症サポーター養成講座

緑区認知症サポーター養成講座「みんなで学ぼう、認知症」を12月20日に緑公会堂で開催し、150名の参加がありました。当日は認知症専門医の高橋正彦氏による認知症についての講話と、緑区認知症キャラバン・メイトによる認知症の方への対応劇を行いました。多くの区民が認知症の正しい知識や対応方法等を理解し、認知症の人とその家族を温かく見守り支援する応援者「認知症サポーター」が増えることで「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指しています。



▲ 講座の様子

■ 介護者支援講演会

日々の介護で多くのストレスを抱えている介護者が、安定した気持ちで介護が続けられるよう、介護者自身が怒りのメカニズムや感情のコントロール方法を学ぶことを目的に講演会を開催し、56人の参加がありました。「介護者の怒り・悲しみ・不安とのつきあい方～感情コントロールを学ぶ～」という

第3章 区域計画

テーマで、ソーシャルワーカー水澤都加佐（みずさわ つかさ）氏を講師に迎え、実施しました。講演会では、ロールプレイを通して相手の話を受け止める体験をしたり、介護者の方の体験談など同じ立場の方の話聞く機会にもなりました。

また、講演会の後には参加者からの個別相談も受け、身近な相談窓口の紹介なども行いました。

■認知症初期集中支援チーム

新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）の重要項目として位置づけられている認知症の人の早期発見・早期診断・早期対応の機能を担う「認知症初期集中支援チーム（以下チームという）」について、横浜市でも設置が進められています。チームは看護師、精神保健福祉士、医師等医療・介護の専門職で構成され、緑区では9月から元気会横浜病院の専門職がチーム員として活動しています。チームは、相談者の自宅に訪問し、専門医療機関の受診や介護サービスに関する利用支援などを行います。地域包括支援センターや区役所が相談窓口となり、連携して相談に対応しています。

■区レベル地域ケア会議の開催

高齢者が住み慣れた地域で尊厳ある生活を可能な限り継続できる体制（地域包括ケアシステム）を構築するため、地域の課題抽出と解決方法を検討することを目的に地域ケア会議を開催しています。認知症への支援が区域の重要な課題と捉え、平成27年度から3年間「認知症」をテーマにしています。今年度はテーマを「認知症の人が安心して地域で暮らしていくために必要な区民の理解」とし、連合自治会や地域活動団体、区内の医療福祉関係機関、警察、消防などの代表者が参加し2月8日に開催しました。「認知症カフェ」など緑区の認知症の人を支える仕組みや現状について共有し、認知症の人が安心して暮らせるまちづくりのために必要な取組などについて様々な立場から、今後の各地域での取組を見据えて意見交換を行いました。

（3）障がい児・障がい者に関する取組

■障がい者週間パネル展&ハートフルマーケット

緑区役所では障がい者の社会参加や生きがいづくりの支援と、障がい理解の普及啓発を行っています。その一環として、障害者週間に合わせた拡大版として、区役所の敷地内で、障がい者が通う事業所の自主製品販売会「みどりハートフルマーケット」を12月6日（水）～8日（金）に行いました。障がい者の活動紹介などのパネル展示（期間中は常設）も行き、通常よりも多くの施設が参加しました。



▲ 「みどりハートフルマーケット」の様子

（12月6日：6団体、7日：4団体、8日：2団体、3日間で延べ約500名来場）

また、広報よこはま みどり区版12月号で特集記事を組み、区内の事業所の紹介や、障がい者のインタビュー記事を掲載しました。他にも区民に広く自主製品販売活動を知ってもらうために、ホームページ、パンフレット等を活用してPRをしています。また、共同販売の場の設定や販路拡大、共同販売の場を盛り上げるためのグッズ購入などの支援を行っています。

■緑区「みんなの学校」映画上映と木村泰子さんの講演会

昨年緑区社会福祉協議会・みどり障がい児者支援ネットワークが、障害者週間で「みんなの学校」を上映しましたが、今年度は区民の方が主体的に実行委員会をつくり、地域団体、関係機関と連携し多くの方が協力して上映会しました。今回は初代校長先生の木村泰子氏をお呼びして、「障がいの有る無しに関係なくその子の個性としてみんなで育ちあい、子どもの関わりから大人が学ぶ、地域が学ぶ大切さ」を講演してもらいました。

「今年は昨年の上映会の経験を生かして、PTA 関係の有志を集めてやってみたい」ということで実行委員会をつくり、運営、準備、資金集めに汗を流してきました。障がいのある方が安心して生活できる緑区のために、福祉関係者だけでなく、主体的にこうした取組をしてくれる区民の団体が増えることを目指します。



▶ 上映会チラシ

(4) 子ども・子育てに関する取組

■みどり子育て支援連絡会と地域活動支援

区内の子育て環境の現状の共有と子育て支援が目指す姿を検討していく「みどり子育て支援連絡会」を開催しています。

子育て支援の活性化を図ることを目的に、「全体連絡会」2回と「地区別連絡会」を5回行いました。昨年度は三保地区・長津田みなみ台地区・白山地区が子育て支援の空白地区であるという課題を把握しました。今年度は3地区別に会議を開催し、活動情報を掘り下げながら話し合い、課題解決に向けて検討を進めました。

具体的な取組として、身近なところで親子で集える場所が増えるよう進めています。今年度の取組の1つとして、三保地区の子育て中の母達による子育てサークル「みほどんぐりの会」の活動開始に向けて支援しています。転入者の多い地区であることから、活動を通じて地区を知り、親しむ機会になるよう地区の保健活動推進員や地区内の子育て支援機関なども協力して準備を進めています。



▲「みほどんぐりの会」の
豆まき会の様子

■要保護児童対策地域協議会緑区実務者会議地区別連絡会の開催

要保護児童対策地域協議会は児童福祉法に基づき、児童虐待の防止のために、児童福祉・子育て支援機関の相互の連携を強化し、実務者のネットワーク活動を充実させることを目的に設置されています。緑区では、区民の生活圏である駅を単位とした4つのエリア（長津田、十日市場、中山、鴨居）ごとにエリア内の民生委員児童委員、学校、保育所、地域子育て支援拠点「いっぽ」や親と子のつどいの広場、地域ケアプラザなどの子育て支援に携わる機関・実務者と区役所、児童相談所がネットワークを構築しています。連絡会は、エリア毎に2回開催し、2回目には模擬事例による個別ケース検討会議の体験を行い、それぞれの立場から具体的な支援方法等について意見交換をしました。

■赤ちゃんの駅の拡充

緑区では、乳幼児連れでの外出を促進するため、市立保育所等に「赤ちゃんの駅」を設置しています。授乳・調乳・オムツ替え・休憩等ができ、子育ての心配事や悩みの相談に乗ったり、外出時のアドバイスもお伝えしています。平成30年3月現在、区内公立4園と民間13園で実施しています。

(5) 災害時に支援が必要な方への取組

■特別避難場所連絡会

緑区特別避難場所連絡会を6月14日に実施しました。

区内で協定を締結している25施設の代表が集まり、緑区における特別避難場所の状況や災害時の連絡方法などについて確認するとともに、今年度新たに市で調達した、災害時に通信連絡網が混雑した場合でも、区役所（援護班）等との連絡が優先的に行える専用の携帯電話が配付されました。

また、特別避難場所受入図上訓練（HUG 訓練）の体験を行い、発災時の対応についてイメージし、備えておくことの必要性を共有しました。



▲ 災害時優先（発信）電話

■災害ボランティアコーディネータースキルアップ研修

10月に大規模災害発生時に災害ボランティアセンターの運営に協力いただくボランティアスタッフのスキルアップ研修を開催しました。横浜創英大学の平野先生に講師を依頼し、災害時にボランティアを受け入れる際のコーディネートのポイントを学びました。

12月には10月の研修をふまえ、「ハーモニーみどりまつり」の会場の一角で災害ボランティアセン



▲ 12月の研修の様子

ターが立ち上がった際に起こりうる相談を演習として行いました。マニュアルにそぐわない相談の場合や予測しない事態の相談の場合にはどうするのかなどについて意見交換を行いました。当日は防災ライセンスメンバーの方にもボランティア相談者役としてご協力いただき、一緒に研修を行う機会を設け、今後地域の中で災害ボランティア講座受講者がどのような立ち位置にいるとボランティアコーディネーターがスムーズになるか等の意見を交換しました。

(6) 健康づくりに関する取組

■ミドリウォーキングフェスタ

自然が豊かな緑区の特性を生かし、1年を通じてウォーキングによる健康づくりを推進しています。1月20日には、長津田玄海田公園で子どもから高齢者まで幅広い世代を対象にウォーキングイベント



▲ イベントの様子

を開催しました。イベントの運営には緑区ガイドボランティアの会や保健活動推進員、食生活等改善推進員などの協力を得ながら協働で実施しました。3つのウォーキングコース（歴史散策コース・自然散策コース・公園で健康づくりコース）を設定し、68人の参加がありました。様々な世代の参加者が一緒に歩き、交流の機会になりました。また、ゴール地点では、健康づくりイベントとして健康チェック、野菜をもっと食べようキャンペーン、お口の健康チェックを行いました。多くの参加者が立ち寄り、自身の生活習慣を振り返る機会になりました。

■SAT（サット）システムによる食育の取組

「食」に関する正しい知識を持ち、健全な「食」を選択し実践できることを目指す取組の1つとして、「SATシステム（フードモデルを用いた栄養診断システム）」を活用した講座を開催しました。普段の



▲ SATシステム

食事内容をフードモデルの中から選び、センサーボックスに乗せると個別の栄養診断が得られます。診断結果をもとに栄養士がアドバイスをを行い、バランスのとれた食事内容にするための工夫点を伝えています。

今年度は、区内4つの小学校の児童や保護者、企業の職員向けに開催しました。子どもから働き盛りの世代まで、様々な世代の対象者が自身の「食」を振り返る機会になっており、今後も様々な場面で実施していく予定です。